

八代市

ダム建設問題点 環境再生へ議論

日韓湿地フォーラム

(熊本日日新聞 2020年12月6日)



ダムの問題点を指摘する声があがった
「日韓NGO湿地フォーラム」

= 5日、八代市

破壊される懸念がある
ことも訴えた。
韓国側からは、4河
川の16の堰を、開放や
撤去することで環境再
生を図る事業の報告な
どがあった。

(木村彰宏)

日本と韓国で、湿地
や河川の研究と保全に
取り組む人たちの国際
会議「日韓NGO湿地
フォーラム」が5日、
八代市の桜十字ホール
やつしろを主会場にオ
ンライン方式であり、

約70人が参加した。球
磨川水系の川辺川に治
水ダム計画が復活しよ
うとしていることを受
け、ダムの問題点を指
摘する声があがった。

NPO法人ラムサー
ル・ネットワーク日本

(東京)などが毎年、
日韓で交互に開催。15
回目の今回は、荒瀬ダ
ム撤去で球磨川や八代
海の干潟の環境改善が
注目される八代市で初
めて開かれた。

住民ネットワーク・

水源開発問題全国連絡
会共同代表の嶋津暉之
氏が基調講演。ダムの
緊急放流の危険性を指
摘し「ダムをやめて、
予算は河川改修に集中
し、河床掘削を進める
べきだ」と説いた。川

辺川の水質改善に採用され
る可能性がある流水型
について「大雨後には、
にごりが残り、下流の
河床が泥質化する」な
どと述べた。

地元の環境カウンセ
ラー 齋藤 詳子さんは、7

月の豪雨災害について
電源開発 (Jパワー)
の瀬戸石ダム(昔北町、
球磨村)が「川の流れ
を阻害し、下流域の被
害を拡大させた」など
と指摘。ダム建設によ
り、川辺川の生態系が